

別表B「学部、学科等の人材の養成及び教育研究上の目的」

【基礎・教養教育センター】

基礎科目、教養科目を通して、工学系、情報系、バイオ系の専門教育を学ぶための共通の基礎的な知識を身に付け、また、社会人として生きていくための教養をもち、自分で物事を考えていくことのできる能力を身に付けることを目的とする。

【教職課程】

社会や子どもの変化にともなう多様な教育ニーズに対応できる能力を養うとともに、個性豊かな創造性や新たな課題へ積極的に挑戦できる意欲と実践力を持つ教師の育成を目的とする。特に本学の特質を生かし、工学基礎学力をもとにした科学教育に貢献できる教師の育成を目指す。

【学芸員課程】

欧米では早くから学校教育や生涯教育の一環として、博物館を利用した教育が盛んに行われてきており、わが国においても近年この気運が特に高まってきている。博物館には人類の築いてきた文化遺産やその研究成果が、工芸品や古文書、標本といった主として「モノ」の形をとって所蔵・展示されているが、博物館の専門職として博物館法に定められた専門事項に加えて、科学や文化に深い理解と洞察を有する資質豊かな学芸員を育成することを目的とする。

【工学部】

「工学の基幹となるべき基礎的分野を十分に教授し、併せてグローバル化を志向する」ことを柱とし、さらに、人類の要望と、地球・地域環境の保全、エネルギー源の確保など、国際的な課題についてイノベーションが求められており、工学技術の新しい展開に関して基礎から応用へ向けて創造性を身に付けた人材を養成することを目的とする。

機械工学科

豊かな教養と幅広い視野をもち、創造性豊かで探求心あふれる機械技術者を養成することを教育方針とする。また、技術者としての社会的責任と倫理観をもち、急変する地球環境の保全やグローバル化・高度化する工業製品の開発・設計・生産に貢献できる技術者を養成する。さらに、機械工学の基礎知識を十分に身につけ、これをもとに、生涯にわたって機械および機械システムを設計する能力を継続的に構築できる技術者を養成することを目的とする。

電気電子情報工学科

基礎学力の修得を重視し、体験型授業によりコミュニケーション能力、問題解決(デザイン)能力、情報活用力を養い、社会的要請に応えられる能力を備えた技術者を養成する。特に、学生の個性を生かした有為な技術者を養成することを目的とする。

応用化学科

応用化学は多岐にわたる産業基盤技術の礎であり、なおかつ学際、専門領域の基礎となる学問である。そのため、応用化学諸分野(生物化学、医薬有機合成、環境化学、エネルギー化学)で必須となる基礎知識の習熟と応用力を養成し、さらに社会の要請に沿った柔軟な発想力と優れたコミュニケーション能力を有する科学技術者を養成することを目的とする。

【情報学部】

数理学および自然科学的素養に加えて、情報システム、ネットワーク応用システム、メディアコンテンツなどの開発に深く係わる社会科学的素養も十分身に付けた新しいタイプのエンジニアを養成するとともに、幅広い視野と実践力を持つ情報技術（IT）分野の総合エンジニア、すなわち「理系のスキルと文系のセンスを兼ね備えたITのプロフェッショナル」を養成することを目的とする。

情報工学科

情報工学は電気、制御、数理などの工学分野と密接な関係を持ち、さらに、生命科学、社会科学、人文科学、経営科学をも基盤とする。また、極めて広範囲の応用分野を持つ特性を踏まえ、各種のシステム・ソフトウェア技術を機軸とする高度な専門性ととも、多方面の専門家と協調しつつ問題解決を図るコミュニケーション力と、深い教養と幅広い視野を身につけた創造性豊かな情報技術者を養成することを目的とする。

情報ネットワーク・コミュニケーション学科

インターネットや携帯電話を初めとする日常生活の重要な社会基盤である情報ネットワークのさらなる高度化を実現する担い手として、情報処理基礎技術とネットワーク技術およびその応用技術の全てに精通した、新しい情報ネットワーク技術者を養成することを目的とする。

情報メディア学科

職業・社会・人生において適切な判断の出来る教養と広い視野を有し、創造・制作・構築への意欲と能力のある情報メディア技術者・制作者を養成することを目的としている。そのため、教養科目では問題意識と価値観を持たせること、専門科目では、科目や分野への興味と社会での必要性を理解させること、少数の必修科目をしっかりと身に付けさせること、講義科目による知識の修得以外に、体験科目により、問題発見と問題解決の態度・方法を身に付けさせることを方針とする。

【創造工学部】

工学の基礎的分野を組み合わせた具体的な装置等を主題として、その新しい技術開発を教育方針とする。また、創造性を育成することを柱とし工学技術者としての創造性、発案力、企画力、分析力、展開力を修得させ、問題発見解決型の素養を身に付けた人材を養成することを目的とする。

自動車システム開発工学科

製品開発の源流（市場調査や企画）を含め、製品の仕様決定、概念設計、詳細設計、実験、製造等の一連の過程を担える技術者を養成する。また、自らの手で情報を入手し、適切に判断できる技術者を育成する。とりわけ、自動車における環境、安全性、快適性に対する理解を深め、これからの自動車産業を支える技術者を養成することを目的とする。

ロボット・メカトロニクス学科

学生一人一人の個性を活かしつつ、問題発見・解決ができる能力を育成するものとし、具体的にはロボットに代表されるマイクロコンピュータを利用した組み込み機器、福祉機器や自助具、健康増進システムの構築などをテーマにした感動体験教育により、社会に貢献する高度な技術者を養成することを目的とする。

ホームエレクトロニクス開発学科

人間と社会との係りを理解した上で、エレクトロニクスの基礎を習得し、製品の企画提案、開発設計および製品のアドバイスが可能な技術者を求める産業社会の要請に対応し、家電製品の機能構成に係る基本的な知識を持ち、エレクトロニクス製品の設計、開発さらにはデザイン表現技法を学ぶことにより課題解決や提案の能力、さらには社会の要請や社会貢献を的確に捉える能力を備えた技術者を養成することを目的とする。

【応用バイオ科学部】

生命科学は、「バイオテクノロジー」に基盤を置いた「細胞、DNA、微生物など」のミクロな分野から、エンジニアも含む「食糧生産、エネルギー生産、医薬品生産、環境保全など」で展開されるマクロな分野までの幅広い領域を包括する学問である。本学部では「生命科学」をはじめ、生命科学に関連する「健康科学」や「栄養科学」を含む幅広い基礎知識と高い実践力に加え、生命科学や栄養学などに関する基礎的な素養を持ち、豊かな創造性とチャレンジ精神を身に付けたバイオ技術者・バイオ支援技術者や科学的センスに富んだ管理栄養士を養成することを目的とする。

応用バイオ科学科

生命科学を生活に役立てるための基本的な知識を持ち、さらに最新の生命科学技術を学ぶことにより、地域社会はもとより、地球社会に貢献でき、国際性豊かに活躍できるバイオ技術者、バイオ支援技術者を養成することを目的とする。

栄養生命科学科

健康な社会を目指すとともに、環境を大切にし、人間としての優しさ、豊かさ、思いやりをもてる人材の育成を目指す。そして、「生命科学」「健康科学」および「栄養科学」を学習することにより、健康・保健教育・指導や栄養教育・指導の実践を担える科学的センスに富んだ管理栄養士を養成することを目的とする。